

中央大学 2026 年度特別入試 【解答・解答例】

試験方式	自己推薦入学試験
学部（学科/専攻）	国際経営学部
科目	小論文

※本件についての質問・照会には、個別に回答することはいたしません。

※公開する解答・解答例には、別解がある場合があります。

【解答・解答例】

問 1

- ① 外国人労働者が短期滞在から帰国せず、定住化したこと（25 字）
- ② 家族帯同により教育や受け入れ対応が求められたこと（24 字）
- ③ 異文化が可視化され警戒が強まり、極右政党が台頭したこと（27 字）

問 2

解答例 1

文化は交流を通じて常に変化しうるのに、変更不能、同化不能と断定して排除を正当化している（43 字）

解答例 2

一見公平に見えるが、想像上の「本物のフランス文化」を唯一の基準とし他文化を劣位においている（45 字）

解答例 3

文化は多様で混じり合うものなので、移民を送り返せば文化的純化が行なわれるはずがない（41 字）

問 3

日本社会で外国人の姿が身近に見えるようになった要因はいくつかある。まず、少子高齢化で働く人が足りなくなり、介護や建設、農業などで外国人労働者を受け入れるようになった。次に、留学生や外国人家族が地域に住むようになり、学校や日常生活の中で接点が増えたことがある。観光客の増加も加わり、外国人は一時的な存在ではなく、社会に根を下ろす人々として見えるようになった。

私はこの現状の中で、最も重要な課題は学校教育における日本語学習支援の不足だと考える。外国につながる子どもは年々増えているが、日本語が十分に理解できず、授業についていけないことがある。結果として学習の遅れや孤立が生じ、将来の進路に大きな影響を与える。さらに、クラスメートとの交流が難しいことで、周囲に誤解や偏見が生まれ、地域社会の分断につながる恐れもある。

対策としては、自治体と学校が協力し、日本語を学ぶための特別教室や専門の教師を増やすことが必要である。また、地域の人々が参加できる交流活動を広げ、外国人の子どもと日本人の子どもが共に学び、遊べる場を作ることも有効である。こうした取り組みが進めば、外国人の子どもが安心して学び、社会に参加できるだけでなく、日本人の子どもも多様な文化を理解し、共生の意識を育むことができる。

外国人の可視化は避けられない変化である。それを排除の理由とするのではなく、教育を通じて未来の社会を支える力に変えていくことが重要である。

労働環境の不平等、差別や偏見の拡大などもある。(630 字)

中央大学 2026 年度特別入試 【評価の視点】

試験方式	自己推薦入試、海外帰国生等特別入試、外国人留学生入試【A方式】、外国人留学生入試【B方式】、指定校推薦入試
学部（学科/専攻）	国際経営学部 国際経営学科
科目	面接

※本件についての質問・照会には、個別に回答することはいたしません。

※公開する内容については、別解がある場合があります。

※①試験問題、②解答又は解答例、③出題の意図の要素を含むものとして「評価の視点」を公表します。

【評価の視点】

国際経営学部の「入学者受け入れの方針（アドミッションポリシー）」で求める知識・能力・態度等を備えているかについて、口頭試問により評価する。